令和8年度 全国学力・学習状況調査分析：学びの実態とこれからの支援に向けて

本分析結果は、令和8年度に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果に基づき、本校、児童の学力の現状と、生活習慣・学習態度が学習成果にどのような影響を与えているかを詳細に分析したものです。
保護者の方と学校が共通理解を持ち、子どもたち一人ひとりに最適な学習支援と家庭との連携を検討するための資料として構成しています。

1. 教科別分析：学習の到達度と課題

国語

国語の全体的な傾向として、全国平均とほぼ同水準の成果が見られます。特に「読むこと」の領域において高い能力が示されました。

◯強みが見られる点

- 情報の取捨選択と整理：
  文章の中から必要な情報を正確に抜き出したり、話し合いの様子を整理してメモにまとめたりする力は、多くの児童に定着しています。

- 語彙の基礎：
  日常的な漢字の書き取りなどは、高い正答状況にあります。

△課題が見られる点

- 記述による表現力：
  自分の経験と結び付けて考えをまとめたり、資料を活用して理由を添えて書いたりする記述式の問題では、空欄が目立つ傾向にあります。

- 情報の関連付け：
  複数の情報を整理し、それらがどのような関係にあるかを理解する「思考力・判断力・表現力」を問う問題に課題が残っています。

算数

算数では、大阪府および全国の平均を上回る良好な結果となりました。特に図形やデータの活用において高い理解度を示しています。

◯強みが見られる点

- 測定と図形：
  直方体や立方体の体積を求める計算、および展開図から面の関係を捉える力は非常に高く、全国平均を大きく上回っています。

- データの読み取り：
  帯グラフからおよその割合を読み取るなど、提示された資料を解釈する力は安定しています。

△課題が見られる点

- 数と計算の論理的説明：
  分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題では、計算はできても「なぜそうなるか」を説明することに苦戦する様子が見られます。

- 割合の理解：
  もとにする量、くらべられる量、割合の関係を正しく捉え、式を立てる問題（特に百分率が関わるもの）において、理解の個人差が大きく現れています。

2. 生活習慣・学習態度と学力の相関分析

児童質問紙調査の結果と学力調査の結果を統合的に分析すると、日々の過ごし方と学習成果の間には明確な関連性が認められます。

◯学習習慣が正答数に与える影響

調査結果を照らし合わせると、以下の傾向が顕著です。

・学習習慣の傾向 |から学力への影響
|| 家庭学習の習慣化 |
家庭での学習時間が確保されており、決まった時間に取り組む習慣がある児童ほど、算数・国語ともに正答数が多く、知識が安定して定着しています。

|| 読書習慣 |
日常的に読書に親しんでいる児童は、国語の記述問題において「自分の考えを書く」ことに抵抗が少なく、文章全体の構成を捉える力に優れています。

|| 授業への積極性 |
授業で学んだことを実生活や他教科と結び付けて考えようとする態度の強い児童は、思考力を問われる応用問題で粘り強く解答を導き出しています。

◯無解答率が高い児童の傾向

- 記述式への苦手意識:
  選択肢から選ぶ問題には取り組めても、自分で文章を構成する記述問題になると、解答を断念してしまう傾向があります。これは「問題の意図が分かっていないこと」や「間違えることを恐れること」や「何を書いていいかわからないこと」などが要因と考えられます。

- 生活リズムの乱れ:
  睡眠時間や朝食の摂取、スマートフォンの使用時間といった生活習慣が不安定な傾向にある児童ほど、集中力の維持が難しく、調査後半の記述問題で無解答が多くなる傾向が見られます。

- 学習への自信:
  自己肯定感や学習に対する自信が揺らいでいる場合、難しいと感じた瞬間に思考をあきらめてしまう様子が、無解答という形で現れています。

3. 個別最適な支援に向けた今後の方向性

分析結果を踏まえ、学校と家庭で連携して取り組むべき支援のポイントを整理しました。

◯学校での取り組み

- 記述力の育成:
  「まずは短文から書く」「キーワードを繋げる」など、記述のハードルを下げ、自分の考えを表現する楽しさを味わえる授業構成を工夫します。

- 根拠を問う声掛け:
  算数の授業等で、答えだけでなく「なぜそう考えたのか」を言葉にする場面を増やし、論理的思考力を養います。

- 個別フォロー:

無解答が多かった児童に対しては、どこでつまずいたのかを丁寧に見極め、小さな「分かった」を積み重ねる支援を行います。

◯家庭での連携へのお願い

- 生活リズムの安定：
  学習の基盤となるのは健康な体です。規則正しい睡眠や朝食の習慣は、学校での集中力に直結します。

- アウトプットの機会：
  家庭での会話の中で「今日学校でどんなことがあった？」「あなたはどう思う？」といった問いかけを通じて、自分の考えを言葉にする経験を増やしてください。

- 学習環境の整理：
  家庭学習の時間を少しでも固定し、机に向かう習慣を肯定的に見守っていただくことが、学力定着への大きな支えとなります。

◯総括

本調査の結果は、子どもたちの現在地を示す一つの指標です。数字そのものに一喜一憂するのではなく、その背景にある一人ひとりの学習態度や生活習慣に目を向け、より良い成長のために学校と家庭が手を取り合っていくきっかけとしていただければ幸いです。